

9月18日(土)～20日(月)
9:00～16:30 (入館は16:00まで)

千葉県立中央博物館

入場無料

ただし、入館料 (大人300円、高・大学生150円、
小・中学生以下無料) が必要です。

主催:産業技術総合研究所 地質調査総合センター
日本地質学会

後援:千葉県・千葉県教育委員会
千葉市教育委員会
関東地質調査業協会
千葉大学理学部

市民講演会(同時開催)

「天災は忘れた頃にやって来るか?
— 憂いのないよう備えよう」

日 程:9月19日(日) 13:00～16:00
会 場:千葉県立中央博物館 講堂(先着150名)
主 催:日本地質学会
参加費:無料



地質情報展
2004

ちば

海から 生まれた大地

深海堆積物からなり現在も隆起している千葉県の地質と、海洋・火山・地熱・地震・天然資源など、さまざまな地質情報を総合的に展示し、地球科学各分野の研究者がやさしく解説します。また、お子さんでも楽しめる「体験コーナー」もたくさん用意しました。ぜひ、ご家族連れでご来場下さい。

体験コーナー

いろんな石に触ってみよう・割ってみよう!
自分だけの化石の模型を作ろう!
パソコンで地学クイズにチャレンジ!
砂で遊ぼう・砂で学ぼう!
水槽実験で地層を再現!
不思議なメガネで立体的に見る海や山!
ペットボトルで地盤の液状化を再現!
グラブ採泥器でマンガン団塊を採ろう!

お問い合わせは、地質調査総合センターまでどうぞ。
<http://www.gsj.jp/>
e-mail:gevent@m.aist.go.jp
tel:029-861-3603 fax:029-861-3602

「千葉県立中央博物館連携事業」

みんなで地質情報展に来てね!

千葉県立中央博物館 2F 企画展示室ほか (<http://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/>)

千葉市中央区青葉町955-2 TEL:043-265-3111 FAX:043-266-2481

JR千葉駅東口の7番のりばから京成バスに乗り約15分、「県立中央博物館」下車し、徒歩7分です。



楽しく学ぶ! 「体験コーナー」



石の成因と見分け方 - さわって覚える石の生い立ち

地球上にはいろいろな種類の石があります。石が「どのようにしてできたのか」「どのように見分けられるのか」をわかりやすく解説します。石にもいろいろな生い立ちがあり、それぞれ違った特徴をもつことを、実際にさわって確かめてみましょう。



石を割ってみよう!

丸い石、とがった石、白い石、黒い石、赤い石、しましまの石。割ってもいい石をたくさん用意しました。気に入った石を選んでハンマーで割ってみましょう。きっと新鮮な経験になりますよ!うまく割れた石は、プレゼントします。



顕微鏡で石を見たこと...ある?

岩石・鉱物・砂粒など、見かけても何とも思わないですごしていますよね?それらが顕微鏡の中では、まったく違った美しい世界を見せてくれます。ふだんは見られないとっても小さな化石も用意して、顕微鏡下の不思議な世界にご招待します。



パソコンで地学クイズにチャレンジ!

パソコン相手に、あなたの地質の知識を試してみませんか? 「地学一般」「岩石」「鉱物」「化石」の4つのジャンルを用意して、あなたの挑戦を待っています。今までの知識に加え、ここで覚えた新しい知識を駆使して地学博士をめざしてください!



自分だけの化石レプリカを作ろう!

本物の化石を見つけることは簡単ではありません。でも本物そっくりの石こう模型を作ることならできますよ。本物の化石から型を作りました。自分で石こうを混ぜ、自分だけの化石模型を作りましょう。できあがった作品はプレゼントします。



不思議な鳴り砂を鳴らしてみよう!

歩くとき「きゅっきゅ」と鳴る、不思議な砂の海岸があります。このような砂を鳴り砂とよびます。このコーナーでは、鳴り砂を鳴らしながらそのしぐみにふれてみましょう。お子さんにはちょっとずつ砂をプレゼントします。



不思議な砂箱「砂変幻」!

砂を封じ込めた箱をひっくり返すと、砂がモクモク動いて美しい砂のミステリーサークルが現れてきます。癒し効果のあるおもちゃで、お年寄りからお子さんまで楽しめます。砂博士と一緒に遊びながら砂のことを考えてみましょう。



河床の変化・河川地形を観察する水槽実験

日本の河川は、第四紀の気候変化・海面変化に關係して河原の高さと川沿いの地形を変化させている。この水槽実験では、氷河時代の海面が低かったときと現在の海面が高いときの河川の状態を再現して、海面変化と河川の応答を観察しましょう。



ペットボトルで地盤の液状化を再現!

地震の際に大きな被害をもたらす地盤の液状化現象を、簡単に再現する実験キット「エキジョッカー」ができました。ここでは、エキジョッカーを使って、地盤の液状化をペットボトルの中に再現しながら、そのしぐみに触れてみましょう。



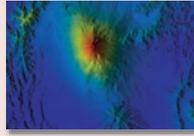
グラブ採泥器を使ってマンガン団塊を探ろう!

グラブ採泥器は、海底の試料を採取するための道具の一つです。どのように作動して試料を採取するのかを知ってもらうために模型を作りました。この模型を使って、海底資源の一つであるマンガン団塊を探ってみましょう。採った試料はプレゼントします。



地形を立体視 - いろんな3D

昔から使われてきた「赤青メガネ」の他にも、平面の図面を立体的に見せる方法がいろいろ工夫されています。地形から地下構造を読みとる手法は、今も有効な地質調査の手段です。大きなパネルで身近な地形を迫力満点にお楽しみ下さい。



富士山から日本海溝まで - 関東の地形を立体視!

不思議なプリズムメガネで立体視できる、大きなパネルを用意しました。日本最高峰から日本最深部までの迫力ある起伏の地形をその目で見てみましょう。

見て聞いて学ぶ! 「展示と説明のコーナー」

海から生まれた千葉の大地 - その歴史をひも解く

海岸段丘が語る過去の巨大地震

房総半島南端の陸上で深海底探検?!

タービダイトの話

木更津付近の地質 - 関東平野の地盤を観察できる場所

関東平野の深部地下地質を探る

プレートテクトニクス - 動く大陸・動く海底

最新の研究成果から - 東京低地について

海の調べ方 - 東京湾・房総半島沖の海底を探る

海底調査の成果 - 海洋地質図

関東口ーム層 - 広域に飛散する火山灰

火山 - 噴火の驚異とその恵み

地熱発電と千葉の温泉

上手に地熱を利用しよう

千葉県の活断層を調べよう

地震が発生する場所

津波のメカニズムとその痕跡を探る

地震で地面が液状化する

地下水観測 - 地震予知をめざして

関東の活断層 - 1/50万活構造図「東京」

房総半島の山砂り資源...開発と環境を見つめる

美しい砂の世界...千葉県海砂あれこれ

千葉の天然ガスとヨウ素資源

地質図ってなに?何に使うの?

20万分の1デジタル地質図(東日本地域)

地球物理図 - 重力や磁力で地下の構造を調べてみよう

千葉県市原市周辺の自然由来の土壌・地質汚染の状況

化石のはなし

「特設コーナー」



地質標本館がやってきた!

日本で唯一の地質専門の博物館「地質標本館」は、茨城県つくば市にあります。ふだんはそこで見られない珍しい展示物(化石や鉱物等)の一部を展示します。手に触れることのできる標本も用意します。



地質なんでも相談

社会生活の中で、疑問に思っていることはありませんか?地質・地震・火山・資源など、各分野の研究者が、皆さんの質問にお答えします。また、不思議な石をお持ちでしたら会場にお越し下さい。地質標本館長が鑑定します。

ほかにも、関東地質調査業協会「社会に貢献する地質調査業」ブースや地質調査総合センターの出版物を紹介するブースがあります。

市民講演会 (9/19 13:00~16:00 博物館講堂)

「天災は忘れたころにやって来るか? - 憂いのないよう備えよう」

- (1) 「大地震は繰り返す - 大地震の発生予測と地震・津波防災」
津村建四朗 (財)日本気象協会参与・地質調査研究推進本部地質調査委員会委員長
- (2) 「富士山の最後の噴火、将来の噴火 - 富士山の噴火で首都圏が受ける影響」
藤井 敏嗣 (火山噴火予知連絡会会長・東京大学地震研究所教授)
- (3) 「房総半島の地震と地磁気の変動」
伊勢崎修弘 (千葉大学教授)
- (4) 「災害に負けない街づくりに向けて - 都市における防災対策の現状と課題」
中山 俊雄 (東京都土木研究所主任研究員)

会場内で撮影したスナップ写真を、地質調査総合センターのホームページや出版物に掲載させていただくことがあります。